

基盤整備を契機とした在来種「あけぼの大豆」の生産体制強化【山梨県南巨摩郡身延町】

みなみこまぐん みのぶちょう

農業の成長産業化

国土強靱化

【工夫のポイント】

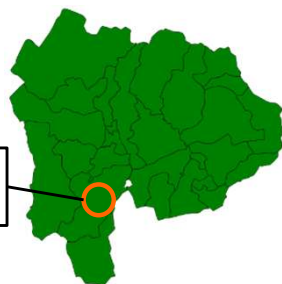
- 昼夜の寒暖差が大きく、霧が多く発生する特有の気候と、水はけの良い土壌により育まれた在来種大豆のブランド力強化を図るため、身延町あけぼの大豆振興協議会を設立。
- 水稲からの転換と荒廃農地の基盤整備により生産の拡大を図り、増加する需要に対応。
- 集出荷拠点施設の整備により品質管理体制を整備し、高品質化を実現。
- あわせて、加工施設を整備し新たな加工品開発に取り組み、6次産業化を町ぐるみで推進。

【取組地域の概要】

- 位置 みなみこまぐんみのぶちょう
山梨県南巨摩郡身延町（過疎、山村、特農）

山梨県

みのぶ
身延地区



- 主要作物
・水稲、大豆、小麦
- 主な支援施策
・中山間地域総合整備事業(H22～)
・中山間地域所得向上対策(H28～H30)
・農地耕作条件改善事業(H28～)

区画の拡大による生産性の向上

- 荒廃農地を整備し、農地の集積・集約化を図り、貸し借りしやすい環境を整備。
- 区画の拡大により農業機械の導入が可能となり、生産性が向上。生産量も増加し、安定供給を確保。



整備された圃場

基盤整備

(H22年～)

【整備前】

- 農業従事者の高齢化に加え、狭小で不整形な区画であるため、機械化が難しく、荒廃農地が増加。
- 町の特産である「あけぼの大豆」の需要は高まるが、規模拡大が図れず供給が不足。



狭小で不整形な区画

生産現場

各種補助金をフル活用した営農の効率化

- 管理作業機械等の農業機械導入による労働時間の削減。
- 試験ほ場を整備し、収穫量向上のための栽培方法を検討。



機械導入の講習会

加工・流通

施設整備による品質向上と6次産業化の推進

- 集出荷施設を整備し出荷基準の統一、品質向上によるブランド力強化。
- 規格外の枝豆、大豆を加工・販売し、6次産業化の推進と消費の拡大を図る。



選別機械の導入

担い手への農地集積の促進

- 農地中間管理事業を活用し、農業生産法人を含む新たな担い手に農地を集積。
- 県・JAと連携した栽培講習会を開催し、安定生産と品質向上の取組を推進。



指導員による普及活動

特産品の生産体制構築と収益力強化

- 基盤整備を契機に、「あけぼの大豆」の生産体制の構築と品質の向上によるブランド力の強化により収益力を高め、農業者の所得が向上。



【「あけぼの大豆」としてブランド強化】

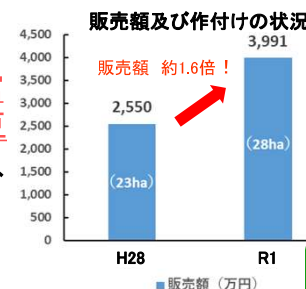
- 選別ではね出しとなった枝豆や大豆を活用し、新たな加工品の開発、製造。



シュウマイ

ポタージュ

- 観光業とも連携した枝豆の収穫体験や旅館等での提供により、枝豆及び加工品を広くPRし、更なる販売促進、販路開拓を目指す。



【出典：協議会聞き取りほか】